



■豊かな体験活動を通して
桂川小学校 校長 合澤博之

6月21日～22日にかけて、6年生

は長崎に修学旅行に行きました。修学旅行の大きな目的の一つは「長崎の原子爆弾についての学習を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さについての思いを持つ」ことです。原爆資料館を見学し、追悼平和記念館で集会を行いました。全員で厳粛な雰囲気をつくり、思いをもって静かに黙とうする子どもたちの姿が印象的でした。その後、班ごとに知己堂や浦上天主堂等の史跡をめぐるフィールドワークを行い、戦争の悲惨さと平和への思いをしっかりと感じる事ができました。

宿泊先のホテルは、一般のお客さんも宿泊されておりましたが、礼儀正しく、マナーよく過ごさできました。



▲折り鶴を捧げる6年生

2日目のハウステンボスでは、晴天にめぐまれ、グループで思う存分にアトラクション等を楽しみました。

「楽しむ時は、しっかりと楽しむ。マナーを守り、とても印象が良い。お互いを気遣う行動ができる。」桂川小学校の最高学年として、誇らしさを感じさせる6年生です。学校のリーダーとしての6年生の頼もしさ、優しさを感じています。

5年生は、夏休みに2泊3日のセカンドスクールを実施します。「ゆのうら体験の杜」と「サンビレッジ」に二学級ずつ交代で宿泊し、王塚古墳での勾玉づくりや、シーグラスを使った工作、スキー教室等、たくさんさんの体験活動を行います。それぞれの活動の講師として、たくさん桂川町在住の方をお招きします。桂川町の教育目標にある「新しい時代を生き抜く力」を育てるため、体験活動を通して、豊かな人間関係を育むとともに、自己肯定感や自己有用感の醸成を図っていきます。

■分かりやすく発表する学習

桂川東小学校 校長 金田泰弘

5年生国語の学習の一場面です。ノートに書いた自分の考えを、自分で選んだ相手と二人組で交流します。



相手を代えて合計3人と意見交流し、自分の考えを深めていきます。本校の本年度重点目標「自分で考え調べたことを書いたりまとめたりしてわかりやすく発表できる」を目指した学習です。同時刻、ひまわり二組の国語では、休日にしたことを、何をしたかに重点を置いて詳しくみんなに発表する児童の姿がありました。

下の写真は、考えたことを自分のタブレットに、素早く正確に打ち込めるようにタイピングの練習をしている3年生です。このように本校では、音声言語、文字言語だけでなく

教科の特質に応じて、絵、図、表、体の動きなどで自分の考えを表現できる学習に力を入れています。また、考えたこと、調べたことを発表して終わりではありません。お互いの発表を聞いたり見たりしながら、疑問に思ったことやわからないことを出し合い、考えを深め、さらによいものにしていくことが大切です。そのためには、自分の意見を素直に受け止めてくれる仲間づくり、お互いの考えを出し合える学級の雰囲気づくりに努めています。

